

一般カゼの流行の場合の施設内感染への対策について

今、2Fの専門棟にはカゼがはやっています。幸いノロウイルス、インフルエンザではないのでその点では心配ないのですが、それでも当施設では高齢者をお預かりしていて免疫力の弱い方が多く居ますので、それなりに考慮が必要です。

それではいったいどういう考慮をすべきかを今回はお話ししたいと思います。

まず一般論として、ノロウイルスやインフルエンザ、溶連菌感染症、百日咳、マイコプラズマ、肺炎クラミドフィラ等の特殊のカゼは別として、一般のいわゆるカゼは医学的には「かぜ症候群」と言って原因の90%はウイルスであり治療は「安静・保温・補水・冷罨法」等の対症療法で、予後は良好とされています。もちろん抗生物質は使うべきではないとされています。そして、予防法は移さない・拡げないです。言い換えれば手洗い・マスク・うがいです。

一方当施設では、免疫力低下・慢性呼吸不全・慢性心不全・慢性腎不全等カゼを引いただけで死へ繋がり兼ねない方々も沢山います。でも社会からの要請もあって私達はそのようなリスクの高い方々も看させて頂いて、業務自体がはじめてからそういうリスクを追っていると言うことを改めて認識しておく必要があります。

カゼをひかないような環境を整備する必要がありますが、それでもカゼを100%は防げません。ウイルスカゼをひいてしまったらご本人はご自分の体力で治して頂く以外ありません。そして他の人に移さない・拡げないということが私達の出来る極めて大切なことになります。

従って必要があればルーチンの予定行事も止める勇気が必要です。なぜなら私達の業務の理念は「利用者さんの尊厳・安心・満足」ですので予定の業務を取りやめるほうが理念に沿っているからです。臨機応変に利用者さんが安心する方法を選びましょう。

もし末期呼吸不全・末期腎不全の方がカゼで悪化した場合も「余分なことはしないで看守る勇気」も必要になります。慌てず騒がず粛々と業務に当たることが肝要です。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

